

平成22年度 東京中小企業家同友会

大田支部総会を開催

4月17日、P・O・コンベンションホールにて、22年度東京中小企業家同友会大田支部総会が開催されました。総会に先立って行われた日本理化学工業(株)の会長、大山泰弘氏による記念講演は大盛況。ひき続き、支部総会にて支部長の鈴木善彦さんから支部方針やスローガンの発表と挨拶がありました。改めて、支部方針とスローガン、そして支部長から届いたメッセージをご紹介します。



東京中小企業家同友会 大田支部
支部長 鈴木善彦氏

「メインスローガン」
同友会に答えがある
「サブスローガン」
**全社一丸支部一丸、
踏み出す勇氣、今こそ変革**

企業の変革が 求められる時代

今年度も、経済状況は厳しい年になりそうです。大企業は、底を打ったという事で、持ち直してきているようですが、中小企業に仕事が行き届くには、まだまだの様子に思われます。

また、構造変化が進んでいく事が想定されます。オバマ大統領の推進するグリーンニューディール政策により、エコに則した仕事に代わっていく必要が出てくると思われれます。どの企業にも、変革する事が求められる時が来ているという事でしょう。

今年度の支部方針を決めるに当たり、一泊拡大幹事会で、皆から

現状の問題と取り組みを聞きまし
た。その時出てきた話の中でも、
変革の必要性を感じているという
事が多くありました。ただ、どう
して良いのか分からないというの
が現状のようです。変革の為に、
一歩踏み出さなければならぬと思
っています。その勇氣が沸かな
い。どうしたら良いのか、その、
答えを、同友会に求めているよう
に感じられました。そして、それ
らの意見をふまえ、2010年度
の支部スローガンが決まりました。
昨年度は、支部方針が皆に浸透
しなかったという反省から、今年
度は、全ての活動が、この方針か
らぶれないように進めていきたい
と思っています。それが、失われ
つつある、会の求心力にも繋が
り、また、活性化する原動力とな
ると信じています。

〈2010年度の活動理念〉

原点に帰り、同友会の会活動の
目的や存在意義、有り方を追求す
る事から、会員のニーズに応えら

れる様な活動を探って行きたいと
思っています。
1 番目として、同友会の3つの
目的の追求をします。不況の時ほ
ど、経営者としての価値が問われ
てきます。我々は、同友会の3つ
の目的である、「よき経営者にな
る」、「良い会社にする」、「良い経営
環境を作る」を目標に、日々、経
営者としての勉強をしています。
その目的を達成する為に、会員に
対し、同友会が出来る役割とは何
なのか追求する事が必要だと思っ
ています。
「よき経営者とはどういう経営
者なのか」、「良い会社とは、どん
な会社なのか」、「良い経営環境と
は、どんな環境なのか」。その答
えを、探る事によって、おのずと、
会員のニーズが見えてくるような
気がします。
2 番目として、同友会の存在意
義を確認します。同友会に入っ
ている事のメリットを認識する為
にも、他の経済団体との違いを、は
つきりさせて行きたいと思ってい
ます。その存在意義もしくはメリ
ットは、以下のとおりです。
● 大企業ではなく、多くの身近な
先輩経営者の経営理念を学べる

● グループ討論等で自分の考えを
的確に伝える事や、違った見方を
学ぶ事で、経営者としての資質を
磨き育てる事が出来る。
● 同じ経営上の悩みを相談し合
える、真の仲間が出来る。そのこ
とが、人生の悩みも相談できる仲間
に繋がり、ひいては生涯の友とな
る。
● 仕事の交流が図れる。地域での
循環型経済に移行していく中で、
生き残れる為の布石となる。
● 中小企業が生きて行き易くする
為に、皆の意見を聞き、政策提言
をする。
● 同友会に入り、いろいろと学ん
だことで、会社の業績が伸びる。
以上の支部方針及び活動の理念
に基づいて、具体的な活動方針を
挙げたいと思います。

〈2010年度活動方針〉

1、会員企業の経営上の悩みを吸
い上げ、それを解決出来るような
例会作りをする。支部のスローガ
ンに沿った例会作りを心がける。
2、事務局体制を強化し、いつで
も会員ニーズに応えられるように
する。
・ 大田専属事務局員の配置



総会の冒頭、大田区副区長の
野田隆氏より祝辞を賜りました

- ・ 大田区、又は南部協で共有の事
務所を持つ。
 - ・ 支部会員の情報を集積し会員相
互の事業に役立てる。
 - ・ サロンを作り情報交換の場を提
供する。
 - 3、各部会の活動を見直し、本当
に必要とされている部会に絞り、
力を集中する。組織の見直し↓例
会委員会復活、HP部会を広報委
員会に吸収等
 - 4、先輩会員の参加する場を増や
し、少しでも多くの経営理念やノ
ウハウを学び取るきっかけとして、
懇親会への参加を呼びかける。(年
2回のゴルフコンペ、マスター会
の活動活性化)
 - 5、若手経営者の育成。けいしよ
う会が盛り上がるよう協力する。
 - 6、循環型の地域経済での生き残
りのため、ブロック会を充実し、
地域での交流を深める。
 - 7、会員を増強し、新しい血を入
れる事で、人脈の拡大と新しい考
え方・知識を習得する↓同友会会
費の見直しが必要↓東京同友会へ
の働きかけ
 - 8、積極的に南部協や東京同友会
に参加し、大田支部の考えや思い
をぶつけ、我々のプラスになるよ
うに働きかける
 - 9、地域での行政や経済他団体と
の連携を取り、我々の身近な情報
を吸収し、住みよい環境作りを考
える。
 - 10、経営者として、また人間とし
て、大田支部の会員は素晴らしい
と言われるようになる為の勉強。
↓人間を磨く
- 以上、2010年度の活動方針
とさせていただきます。

総会特別記念講演

後援・(財)大田区産業振興協会

仕事で一番大切なこと 「働く幸せ」



講演者・
日本理化学工業(株)
会長
大山泰弘氏

【会社概要】日本で初めて
ダストレスチヨークを開発、国内シェア30%。
従業員73名中53名の知的障がい者を雇用。
【主な表彰】
昭和56年 国際障害者年内閣総理大臣表彰
平成21年 渋沢栄一賞 など多数表彰

4月17日、支部総会に先立って、

「日本でいちばん大切にしたい企業(あさ出版)で
筆頭に上げられている日本理化学工業(株)の会長、
大山泰弘氏の記念講演が行われました。

障がい者雇用に使命感を持って取り組まれている
大山会長から、働く事の意味や企業経営の
あり方についてお話をいただきました。

「人間の究極の幸せは、人に愛されること、
人に褒められること、人の役に立つこと、
人に必要とされること。働くことによって、
この4つの幸せを得ることが出来る」
社員が働くことに幸せを
感じられなくなってしまうと、会社が永続的に
発展する力は失われてしまいます。

企業を発展・継続していくだけでなく、
社会に貢献し、存在意義のある
企業のあり方を共に学びました。

良いことは、まねるを 取り入れて行きたい



報告者・
(株)シユウエイ
代表取締役会長
秋元次治

「働く」という意味を、恥ずかし
ながら30数年会社経営に携わってき
て、こんなに考えさせられた事はあ
りませんでした。自分も含め健常者
は、何かまちがっているのではない
かと痛感しました。

自分では、働くということをおし
ていたつもりでしたが、先日も
「日本でいちばん大切にしたい会社」

の著者・坂本先生の講演をお聞きし、
日本理化学工業(株)をはじめ一緒に働
く社員とお客様を大事にしている数
社の話を聞き非常に感動致しました。
自分の会社も一歩でも近づけたら
いいなと思っていました。が、「働く」に
ついてそんなに深く考えていない事
を痛感しました。

私が父の後を継いだ時は、身体障
がい者と知的障がい者が一人ずつ2
人いましたが、一緒に働いている人
達が私より年上の人達が多く、周り
の人達が気を遣ってくれていたよう
に思います。私自身は、あまり気に
とめることなく今考えると使っ
ていたという意識が強かったよう
に思われます。

会社の理念に 共感しました



報告者・
久保井海苔店
久保井隼

その時に「働く」意味について少
しでも意識があったら、もっといい
会社になっていただろうかと反省して
います。今からでも、良いことはま
ねるを取り入れて行きたいと思っ
ています。

数年前から同友会からの依頼で、
知的障がい者の職業実習訓練の受け
入れをやっています。健常者が大
変勉強させてもらっています。少し
でも社会貢献の一環として、「働く」
喜び度の高い方を一人でも多く一
緒に働く仲間として、受け入れてい
きたいと思っています。

(株)日本理化学工業は従業員73名中
53人が知的障がい者を雇用している
事で、テレビ等のメディアで注目を
集めている中小企業だ。日本理化学
工業は「どのような知的障がい者を
多く使い、工場を稼働させているの
か？」又は「どのような発想から治
具を発案しているのか？」を知りた
いと思ひ、会長 大山泰弘さんの講
演に足を運びました。

そもそも日本理化学工業は知的障
がい者を雇用に積極的な企業では無
かった様ですが、養護学校の先生の
訪問と、お坊さんからの言葉「人は
誰でも幸せを求めている」、「人間の
究極の幸せは、人に愛されること、

人にほめられること、人の役に立つ
こと、人から必要とされること」、「働
くことによって愛以外の3つの幸せ
は得られる」を聞いた事で知的障
がい者の雇用を決意しようです。

しかし、知的障がい者を工場の労
働力にするには仕事の作業方法を改
善する必要があります。その改善の
話の一つに色の識別によって作業を
する治具の話がありました。その治
具の発案のヒントは、「安全に道を渡
れる」信号を判断できる「色の識別
ができる」。それを使った結果、今
まで全く集中して作業が出来なかつ
た従業員が「もっと仕事して良いで
すか？」と聞いてくるようになるま
で変わったようです。

従業員をよく観察し、能力にあわ
せた工夫改善は、結果的に適材適所
まで生み出す事に驚きました。そし
て、この事は健常者も知的障がい者
も同じではないかと思ひ感慨深いも
のでした。

現在、日本理化学工業は従業員の
方々にイキイキと働ける職場を留意
し、賃金だけでなく、「働く幸せ」ま
で得られる会社になっています。最
初は治具の発案のヒントになればと
思い講演を聞きにいきましましたが、最
後は日本理化学工業のすばらしい会
社理念に共感した次第です。



講演会後に行われた本の即売会にて
サインに応える山本氏



会場を盛り上げた立正大学の
チアリーダーによるアトラクション

3月例会報告

担当●経営指針を深め広める会

100年に一度の変革のチャンス

社会経済の変化に伴い経営も変化し
新しい付加価値を付ける手法

講師 ●
第二コンサルティング・オブ・ビジネス
代表取締役 丸山博氏

3月16日、P10にて、コンサルタントの丸山博氏による経営戦略についての講演が開催されました。丸山氏は、昨年夏に開催された経営指針を深め広める会の一泊セミナーにて、参加者からも大変好評で、アンケートの要望が非常に高く、今や全国から引張り張りだこの経営コンサルトです。「未来に生き抜く企業を創る」には、①新商品 ②新市場 ③新連携 ④ヒューマンタッチが必要ということで、今回も、じっくりと学ばせていただきました！



報告者 ●
株シティーハウジング
代表取締役 佐藤 仁
(経営指針を深め
広める会会長)

皆様こんにちは。私は2006年2月に入会しました谷田部と申します。
今回の例会は忙しい事を言い訳に4年間で4回目の出席でした。今回の講師である丸山博先生のお話は、世の中の大きな変化にもやもやしていた私の心に「なんだ、



報告者 ●
株正建アーキスタ
代表取締役
谷田部正文

そういうことだったのか！」と強く感じさせてくれました。
講義のテーマは「100年に一度の変革のチャンス」未来に生き抜く企業を創る。現在の日本の社会状況は経済史上必然的になった結果であること。その大きな変化に対応するキーワードは「ヒューマンタッチ」。お客様が買ってくれる決断をする基準は、一定の価格と品質が保証されれば最後は「だれから、買うか」ということであり、単純に言うところ、かわいげ

のあるやつから買うのが人情であるとのことでした。
自分が研鑽し、人間力を高めて「ヒューマンタッチ」を身に付けることでこれからの大変な社会を乗り切っていくのだという決心を新たにいたしました。
サボっていた同友会でしたが、これからは改めて学ぶ場として出席していきたいと思えます。私にとってまさにタイムリーな例会でした。これからもよろしくお願ひ致します。

大田支部3月例会が当指針の会の担当ということは、すでに昨年の8月の段階で解っておりますので、恒例の箱根一泊経営指針の会研修の時に、講師をお願いしていたコンサルタントの丸山博先生にお話ししようと思っておりました。全国の同友会で経営指針に基づく経営を指導し、実践しているその指導力と、セミナー参加者を引き付ける巧みな話術に是非大田支部の皆さんに聞いてもらおうと思っておりました。
指針の会のアピール不足と、幹事会との連携の悪さで、参加者が20数名とちょっと淋しい例会となりましたが、中味は非常に実のある充実した例会となったと思えます。
現時点を歴史的転換期としてとらえ、「100年に一度の変革のチャンス」というタイトルに少しだけ大きさと感じつつも、激変する

政治、経済状況の分析力、洞察力は大変参考になりました。
(旧タイプ)付加価値の消滅はネット検索による革命的な「価格丸ハダカ」状況が出現し、価格破壊が一挙に進む世の中になっていきます。そんな変化の時代のヒントになるような言葉をもらいました。結局最後は物を誰から「買うのか？」このもっとも重要なポイントに「ヒューマンタッチ」と「可愛げのある」これが新しい付加価値となっていくということです。
新時代への経済課題としては経営の「質」を高める。経営指針の質、人材教育の質、質の高いマネジメント能力、特に質の高いマネジメント能力はCA重視、Checkから即Action(問題解決力)柔軟でしなやかな経営計画、毎月、毎月の見返し(硬直化しない計画)が必要である。月次毎に変化させる数値計画(今まであまり考えなかった?)人材の多能工化、人材有効活用、発想の転換が必要ということ。まとまりがなくなりませんが、この誌面により何かを感じとっていただければ幸いです。
丸山先生ありがとうございました。

5月例会報告

担当・リバーサイドブロック

昭和41年「親父!! 金持ちになれるかもしれないぜ」

講師・

(株)井上製作所

代表取締役

井上忠道氏



「プロフィール」世を拗ね、その筋の道に流されていた時代もあったが、21歳の時、父が興した製造業の会社に入り、お客様への誠実さと持ち前の明るさで手腕を発揮。電気製品の組み立て工程に使われる半導体部品をカバーする治具の製造をする国内シェアナンバーワンの企業にまで発展させた。

なれるかもしれないぜ」

5月19日、PIOにて開催された

大田支部5月例会に、大田の重鎮、(株)井上製作所の

代表取締役、井上忠道氏が、ついに登壇!

「金持ちになれるかもしれない!」そんな気持から父と始めた

井上製作所を、当初4名だった家業から30名の企業へと

成長させていく様子を克明に語っていただきました。

「ただ水の流れのようにやってきた」と語る一方で、

「一番働く、先頭に立つ」という経営スタイル。

から、井上氏の経営哲学やリーダーシップのあり方々とことんお聞きしました。

家族付き合いも深い
盟友・忠道さんの半生

報告者 ●
(株)サヤカ
代表取締役
猿渡盛之

大森へ行くとは分かるが、忠道さんの行きつけの店は結構ある。そんな飲んべえだったからか、若いころ、胃潰瘍になり、入院してしまった。その入院先、いすず病院の受付をしていたのが、後に奥さんとなるセツ子さんだった。

人の縁というのは、本当に不思議なモノだと思う。お二人と、私ども夫婦は、本当に親しくさせていただ

き、ゴルフで呑川のお宅に迎えに行くこともしばしばだった。

忠道さんは、誰もが認める上級者だが、セツ子さんのボールもまっすぐ遠くへ飛んだ。カラオケを一緒にすることもあったが、歌も本当に雰囲気があり、上手だった。その井上夫婦と私たち夫婦と、森下家で食事会をしていた時、セツ子さんの調子が悪くなり、そのまま入院し、やがて残念なことに他界されることとなった。病床、セツ子さんは、忠道氏のことを本当に心配していた。それだけ、忠道氏はセツ子さんに頼り切って生活していたのだろう。

さて、本題に戻すが、内陸部で仕事をしていた井上製作所が、昭和52年京浜島に進出し、やがて半導体用マガジンラックが大ヒットし、城南

島へと移転し、さらに発展を続けることとなった。その城南島で、それまでのアルバイト中心から、組織的な経営への転換を課すこととなった。また、同友会へ入会するとともに、高校求人に参加し、初めての新卒社員が入社することとなり、会社の雰囲気が大きく変わった。特に、誰もが分かる指示命令の仕組みができたことは大きかった。また、同友会で学んだことを、朝礼などで話すことで、社員の意識にも変化が生まれてきた。

しかし、リーマンショックによる不況は大きな打撃となった。

「後継者は、まだ頼もしさに欠ける所もあるが、粘り強く、育てていかなければならない」と思っている」と語った。



窮地の井上氏の話に、真剣な面持ちで聞き入る参加者たち

ブロック会からのお知らせ

大田支部には、現在、バイエリア、リバーサイド、大森の3ブロックに分けたエリア会があります。各エリア会では、定期的に会合を持ち、大田支部全体や、より密接した地域での情報交換を行っています。3エリアのブロック長から、最新報告をお知らせします。

バイエリア

ブロック長●青木義昭氏

去る4月15日済州島旅行の反省会を兼ね、バイエリアブロック会が行われました。リバーサイド島村さんも出席してくれて、お陰さまで盛り上がり有意義な会になりました。以下報告いたします。

【議題】

- ①リバーサイドブロック長島村氏が担当5月例会の番宣のため出席。出席者の多くが参加の申し込みをしました。5月の例会は今年度同友会副代表理事に就任された井上忠道氏。
- ②担当7月例会講師について。大田支部会員の若手経営者による例会を企画することに出席者全員一致。講師候補の経営者へその場で電話し承諾内定を得ることが出来ました。参加者目標100名に設定。
- ③済州島研修旅行反省報告会。瀏さんよ

り最近の韓国事情等報告がありました。同友会ならではの研修旅行でした。企画の中止かと思われましたが、私にとって記録ではなく一生記憶に残る良い旅行でした。

【出席者】

安藤さん、伊藤さん、佐藤さん、杉崎さん、佃さん、庄司さん、瀏さん、小林さん、島村さん、青木氏

リバーサイド

ブロック長●島村 亮氏

リバーの活動内容と実績ですが、開催は毎月1回定期的に行っております。内容は近況報告や出席者間の情報交換が主です。最近の話題は先日開催された5月例会の運営や内容についてでした。今後話題になってくるのは、さらなるブロック会の発展のために話題作り重点を置

いていくつもりです。たとえば時事問題の研究などを考えています。6月は18日に「なかい」で19:00より開催しました。次回もご参加お待ちしております。

大森

ブロック長●皆川祐一氏

5月の大森ブロック会は大森の大森酒場に12名が揃い、7月31日の8月例会納涼会の企画、担当割など 昨年度の反省も含め検討いたしました。特に今回はエコに重みをおき、My箸、My皿、Myフオークなど、ごみを極力排出しないようにお声掛けをいたします。

昨年同様、オージービーフ、モツ焼き、大田汐焼きそば、魚介焼き、子供向けにはかき氷、スイカ割りなど盛り沢山の企画です。是非皆様 家族や社員の皆様もお誘い合わせの上ご参加下さい。

6月例会のお知らせ

立正大学経営総合特論・講演を聞く テーマ「私の挑戦」

講演者●(有)ルミナス 代表取締役 島村亮氏

6月例会は、立正大学経営総合特論。しかも2講演の開催です。

立正大学では、15年間、学生向けの講座の講師として、同友会の経営者が、登壇してきました。会員経営者が、経営者の想い、気づき、理念と実践を直接語ります。

今年は、この講座を大田支部の例会扱いとして、大いに応援しにいきたいと思います。

去る、6月19日、「私の生き方 HISTORY OF TASK」と題した(株)タスクフーズの弥田雅典氏による講演が行われました。6月2回目となる講演は、7月に入りますが、我がルミナス、島村社長です。皆さん、ふるってご参加ください。

日時●7月3日(土)

講義&質疑応答／14:30~16:00

※その後、30分程度の反省会を行います。

懇親会／16:30~18:30

場所●立正大学大崎校舎 3号館4F 341教室

※反省会は、11号館10F産業経営研究室

住所●〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

交通●大崎駅、五反田駅から徒歩5分

大崎広小路駅から徒歩1分

参加費●無料 ※懇親会参加費は実費

参加ご希望の方は、ウェブまたはお電話にてお申し込みください。

WEB●<http://www.ota-doyu.com/reikai/>

TEL●03-5953-5671 / FAX●03-5953-5672 (高橋さんまで)

<http://www.ota-doyu.com>

この春から、新しく4人の幹事が誕生しました。
みなさん、よろしくお願ひします!



星野事務所
行政書士
**星野
誠**さん



(株)木村工業
代表取締役
**木村
晃一**さん



グット商事(株)
専務取締役
**山崎
励士**さん



(株)オープラスメディア
代表取締役
**馬場
雅敬**さん

〈第2回〉幹事会報告議事録 2010.5

【出席者】鈴木、久米、佃、田中、高倉、安藤、河津、有倉、皆川、内田、荒井、湯本大、野口 司会：荒井さん

【入退会報告】2010年4月

入会1名 退会3名 現在227名

●入会 鈴木康之氏(光進舎) 推薦者：山口さん、瀧さん

●退会 今吉幸雄氏(エムデクト)、神谷光明氏(R&B)、伊藤希氏(シードトラスト)

【報告事項】

支部総会について…4月17日コンベンションホール

●議長の台詞を台本通りに読んだが、ある程度はアレンジした方が、血の通ったものになったかもしれない。

●記念講演はとてよかった。もっと後の時刻にしていると、人の集まりがよかったです。

- 記念講演が終わった後、急に人が減るのはなんとなくならないものだろうか。
- 総会のありようは、支部の現状の反映。これはこれとしてうけとめる。幹事会から盛り上げていかないと総会は集まらない。
- 各委員会が話すというスタイルは時間も検討したい。物を考え話す訓練になっているし、自覚を促すという意味でも意義があるが、いかんせん、時間がかかる。
- 来賓挨拶の順番を検討したい。来賓の都合もあるが、総会後の方が自然ではないか。

【協議事項】

[1] 今後の例会について

- 7月3日 立正大学特論：産学担当
7月20日 7月例会：ベイエリア担当
7月31日 ブロック合同納涼会：合同(大森中心)担当
9月15日 9月例会：21研担当
10月6日 18研：18研担当
10月20日 10月例会：マスター会担当
11月17日 11月例会：温故知新担当
12月 忘年会：ブロック合同実行委員会形式担当
1月19日 新年会：指針の会担当
2月 一泊幹事会：一泊幹事会担当
3月16日 けいしょう会
4月23日 支部総会

①5月例会 5月19日 特別会議室運営(例会、二次会)の確認、参加者の確認を行った。

②6月例会 6月19日：弥田さん、7月3日：島村さん 立正大学経営総合特論を、今年も例会扱いとする。特論の後は、飲み会をセットしてほしい。なお、産学交流では、立正大学が「より交流を深めていこう」という姿勢になっている。産学交流の幅が広がる様相だ。

③7月例会 比留間さんをお願いした。昨年、立正大学で話をしているので、それを元に組み立てる。近々、ブロック会を行い、打ち合わせをしたい。

④納涼会 昨年の予算書が参考に提出された。概ね昨年のおりだが、参加費については、もう少し練って欲しいと意見あり。←家族の参加費は安価でよいが、社員はもう少しもらっていいのでは。社員の参加費は安い方が参加しやすいという意見と共に、その逆に、赤字の出ない金額で取った方が参加しやすいという両方に意見有り。あとは、始まり端に食べるものが少なかったので、その点で工夫する。

[2] 組織について

①総務委員会の名前変更

総務委員会→交流委員会
渉外担当→地域交流担当
南部協、東京同友会担当→会内交友担当(御殿場支部との交友も含む)

②大田支部規則の作成

幹事会の効率化をはかりたいため、1年掛けて作成したい。同友会の支部規約に準じて作成。

③新幹事の追加…オープラスの馬場さん(本人了解済み)

④幹事会での報告と承認について

報告されていると承認とみなすのか?報告書にのっていただけで、承認とは見なすことができないのではないかと。会員の参加意識を持つことが出来ない。報告書の中の承認事項が、幹事会などの場で論議されそうもない場合は、必ず確認を入れる。また、承認事項は分かりやすいように明記する。

[3] 会計関連

会費の使い方の見直し

1、講師料補助が必要な場合は、支部幹事会に予算書と必要金額を事前に提出〜次回、フォーマットを討議

2、委員会部会の例会の会場費について 今後は、予算の6万円の範囲内であれば、会場費やお茶、おにぎり代に使っても良い。

[4] その他

①ゴルフコンペ(東京同友会) 6月3日 昨年、大田支部が担当したので、今年も大田としても協力したい。

③南部協議会 経営研究集会の分科会を南部協で持つ。報告者として、大田支部からは、木村正さんが出る。

目次

1面 大田支部総会 会長挨拶

2面 大田支部総会 報告

3面 3月例会報告

4面 5月例会報告

5面 ブロック会からのお知らせ & 6月例会のお知らせ

6面 幹事会報告&新幹事紹介

今号の担当編集委員

蛇川良太郎@クレーン作業なら丸良興業
河津文三@イエ〜!! ホワイトホームズ
井上健太郎@アルミのこなら井上製作所
皆川祐一@油圧機械部品ならミナガワ
柳沢明子@企業広報サポートのパス
瀬戸秀教@売るほどあるよ! 酒の旭屋
鈴木弘伸@webことならエールデザイン
馬場雅敬@動画配信はオープラスメディア

東京中小企業家同友会大田支部
Vol.6●No.83●平成22年6月21日